

# 国語科 学習指導案

日 時 平成20年11月10日(月) 5校時  
学 級 1年2組(男子15名 女子19名 計34名)  
場 所 1年2組教室  
授業者 難波 小百合

1 単元名 4 古典との出会い 蓬萊の玉の枝 - 「竹取物語」から -

2 単元について

## (1) 教材観

この単元は、「いろは歌」、「蓬萊の玉の枝 - 『竹取物語』から -」、「今に生きる言葉」の三つから成り、古典の文章に出会い、古文や漢文を理解するための基礎を養いつつ、昔の人のものの見方や考え方にふれ、現代とのつながりを考えることや古典への関心を持つことがねらいになる。

本単元における基礎・基本は、古典に親しむことに主眼を置きつつ、親しみ、理解するために必要な基礎的な知識であり、それを使って正しく、独特のリズムや言い回しを音読できることであるととらえる。

この三つの教材は、部分的にでも生徒がどこかで耳にしたことのあるような生活の中に溶け込んだ、親しみやすい教材である。また、『竹取物語』は、「かぐやひめ」として知られ、『源氏物語』においては、「物語の出で来はじめの祖」として語られている作品であり、古典学習を始める生徒たちにとっても価値のある教材である。物語では、人々の喜びや悲しみ、当時の生活などが生き生きと描かれており、文体も比較的読みやすく、難しい漢字や語句などは使われていない。そのため、昔の人のものの見方や考え方から現代とのつながりを考えたり、古典への関心を持ちつつ、古典を理解するための基礎を養うことができる教材だと考え設定した。

## (2) 生徒観

生徒は、小学校で文語調の詩や短歌・俳句などにふれ学習しているが、古典の物語や漢文の「読むこと」「言語事項」は初めてとなる。しかし、今回の教材である『竹取物語』の話は、大まかな話の展開を知る生徒がほとんどであり、それを古文で読むという新鮮さは、生徒たちの興味を高めると思われる。

本学級の生徒は、全体として明るく、学習に前向きな生徒が多い。また、漢字の書き取り等の反復練習では、落ち着いて学習に取り組む。しかし、国語を苦手としている生徒は多く、音読では自信の無さから声が小さくなってしまいう生徒もいる。そのため自信を持って音読できるよう、音読に必要な知識を繰り返し学習しつつ、古典の独特のリズムに慣れるための音読の機会を多く取り入れたい。

## (3) 指導観

本単元における基礎・基本とは、古文を読むために必要な知識、理解するために必要な知識を身につけ、古文を正確にリズム良く音読できることと考える。具体的に知識として挙げられるのは、「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読めるか。」、「現代にはない古語や、意味が違っている古語の意味がわかるか。」、「主語や助詞が省略されている箇所をそれらを補えるか。」という三つの点である。

これらの基礎・基本を定着させるための手立てとして、家庭学習との連携を行う。家庭学習での音読練習や調べ学習を行い、授業の始めに確認問題や、音読の達成度を確かめる活動を取り入れたい。

3 単元の目標

- (1) 進んで古典を読み、古人のものの見方や考え方に関心を持とうとしている。(関心・意欲・態度)
- (2) 古文・漢文を繰り返し音読し、読み慣れ、現代語訳や解説文を参考に、話の内容のあらすじをとらえることができる。(読むこと)
- (3) 登場人物の行動や心の動きから、古人のものの見方や考え方、現代とのつながりを読み取ることができる。(読むこと)
- (4) 古文・漢文の仮名遣いや表現、語句の意味、故事成語等の知識を得ることができる(言語事項)

#### 4 単元の指導計画と評価規準（全12時間）

時	評 価 規 準					
	指導目標	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
1	「いろは歌」を繰り返して読み、古文に慣れる。	「いろは歌」を暗唱しようとしている。				古文のリズムを感じて音読する。
2	「竹取物語」についての導入で関心を高める。「蓬莱の玉の枝」の全文を読み概略をつかむ。	「竹取物語」について、知っている内容を書こうとする。			「竹取物語」を読んで、あらすじや構成をとらえている。	
3	冒頭の原文部分を音読し、古文の特徴をつかむ	歴史的仮名遣いに注意しながら正確に音読しようとする。			歴史的仮名遣いに注意して音読している	歴史的仮名遣いや「今は昔・あやしがりて・うつくしうて」の意味を理解している。
4	「蓬莱の玉の枝」の場面を音読し内容を理解する	内容を理解し進んで音読しようとする			歴史的仮名遣いに注意して音読している	歴史的仮名遣いや語句の意味、助詞の省略を理解している
5	「くらもちの皇子」の人物像やものの見方をつかむ。	「くらもちの皇子」の人物像やものの見方が表れている所を探そうとする			「蓬莱の玉の枝」の部分から根拠をもとに、「くらもちの皇子」の人物像やものの見方を読み取っている。	
6	四人の貴公子についての文章を読み、難題とその結末をまとめる。	教科書に登場しない古文を進んで読もうとする。			四人の貴公子の失敗談の一部分を音読する。難題や結末を読み取っている。	歴史的仮名遣いを理解している。
7	かぐや姫に求婚した人物の行動から古人のものの見方や考え方を読み取る。	貴公子の話をもとに考えようとしている。			求婚者たちの話から古人のものの見方や考え方、現代とのつながりを考えている	現代とのつながりを表す言葉を使用する。
8	「不死の薬」の場面を音読し、帝の心情に迫る	内容を理解し進んで音読しようとする。			歴史的仮名遣いに注意して音読し帝のものの見方を読み取る	歴史的仮名遣いや語句の意味、助詞の省略を理解している。
9	「今に生きる言葉」の「矛盾」を読み、あらすじを理解し、書き下し文を読み慣れる。	中国の古典に由来を持つ言葉に関心をもち、進んで音読しようとする。			「矛盾」の由来について、書き下し文から読み取る。	書き下し文を読み、言葉遣いやリズムを理解する。
10	資料集を使って、他の故事成語の意味や成り立ち、使用例をまとめる。(調べ学習)	中国の古典に由来を持つ言葉に関心をもち、進んで音読しようとする。		故事成語の名句・名言の由来について文章にまとめる。		故事成語の名句・名言の由来について理解している。
11	調べたことについて発表し、全体のまとめをする。	調べたことを進んで発表しようとする。	調べたことを適切に発表したり聞き取ったりしている			
12	単元で学習したことを確認テストで確認する。				単元で学習したことを読み取っている。	単元で学習したことを理解している。

## 5 本時の計画

### (1) 指導目標

- ア 教科書に登場しない四人の貴公子の話をすすんで読もうとする。 (関心・意欲・態度)  
 イ かぐや姫への求婚者の話から自分の考えをまとめることができる。 (読むこと)  
 ウ 歴史的仮名遣いに注意して音読することができる。 (言語事項)  
 エ 現代とのつながりのある語彙についても理解することができる。 (言語事項)

### (2) 指導の構想

本校の研究主題である「基礎・基本の定着を図る学習指導の在り方」の具体的な取り組みとして、以下のことが挙げられる。

#### ア 家庭学習との連携（家庭学習課題1）

家庭学習と授業との連携を進めており、古文の音読もその中に位置づけられている。古典学習において、古文に親しみ、また基礎・基本の定着に重要な音読の機会を多く設定したいと考える。

#### イ 「アタック5（始業時5分間での小テスト）」の実施（授業での工夫）

既習事項の中から、歴史的仮名遣いに関するテストを行い、古文を読み取るために必要な基礎的・基本的な部分の知識の習得を目指す。繰り返し実施することで、知識の定着を図る。

#### ウ 授業終結での確かめ（学習の振り返り）

本授業での学習内容を理解できたかどうかの自己評価の機会になる。

また、歴史的仮名遣いに注意しながら正しく読めるということが、基礎・基本の一つととらえるが、本時はそれに加えて、古典に対する興味関心を持つということも基礎・基本の重要な要素と位置づけ、生徒たちに「くらもちの皇子」以外の話を読ませることで、竹取物語に対する興味関心を高めたい。

さらに、古典と現代のつながりを考える学習を行うことによって、自分のものの見方を深めることになると考える。また、関心をより高め、語彙を豊かにすることにもつながると考える。

### (3) 具体の評価規準

	具体の評価規準		
	A（十分満足できる）	B（概ね満足できる）	C（努力を要する生徒への手立て）
関心・意欲・態度	音読により古文を進んで読もうとしている。	音読により古文を読もうとしている。	繰り返し音読し、グループで聞き合わせる。
読む能力	現代語訳をもとに話の結末をまとめ、説明できる。貴公子の話をもとに自分の考えをまとめることができる。	現代語訳をもとに話の結末をまとめることができる。自分の考えをまとめることができる。	机間指導の中で助言を与える。
言語事項	歴史的仮名遣いへの理解を深め、古文をすらすらと音読することができる。失敗談に由来する語彙から短文を作ることができる。	歴史的仮名遣いへの理解を深め、古文を音読することができる。失敗談に由来する語彙を理解することができる。	繰り返し音読し、歴史的仮名遣いについて解説する。

(4) 本時の展開

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価の観点 (方法)
導入 5分	○ 既習事項の確認  1 学習課題の設定	・「アタック5」 ・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す。  ・学習課題を確認する	・指名発表により答え合わせを行う。  ・課題を音読して意識づけを図る。	【言語事項】 ・全体の定着度を挙手により大まかに把握する (観察)
学習課題: 「五人の貴公子の話をもとに、自分の考えをまとめよう。」				
展開          35分	2 学習課題の追究       3 学習課題の解決	・貴公子の名前とかぐや姫からの難題、その結末、話を確認する。  ・貴公子たちの話をもとに、自分だったら誰に同情するか (同情しないか)、根拠を挙げながら考える。  ・同情票の一番多かった貴公子たちの話を一部音読する。  ・同情できる貴公子と同情できない貴公子の違いは何かを考える。	・家庭学習の内容を確認する。 ・発言を多くさせる。 ・話に由来する語彙を使って、簡単な短文を作らせる。 ・根拠に基づいた内容で書かれているか、中間指導しながら確認する。  ・その場面をイメージしながら、ゆっくりと読むようにさせる。  【同情できる貴公子 (中納言)】 ・自分の力で手に入れようとしたが失敗して大けがを負い、最後には死んでしまうから。  【同情できない貴公子 (その他)】 ・違いは、お金や他人任せや嘘でどうにかしようとしているから。	【読む能力】 ・展開に即して古人の考え方を読み取れたか。(発表、プリント)  ・根拠に基づいて書かれているか (観察)  【関心・意欲・態度】 ・進んで古文を読もうとしているか (観察)  【言語事項】 ・歴史的仮名遣いや難解な語句を正しく音読できているか(プリント)  【読む能力】 ・古人の考えをまとめられたか。(発表やプリント)
終結   10分	4 まとめと確かめ  ○ 学習の振り返り   ○ 家庭学習との連携	・貴公子たちの話から学んだことをまとめる    ・音読の練習の指示	・現代にも通じるものがあることに気づかせる。 ・同情した貴公子へのかぐや姫の態度にも注目させる。  ・読んでいない貴公子の話をも音読練習させる	【読む能力】 ・自分なりに考えをまとめられたか。